

琵琶滝等の側を通過して進み工程の三分の二になる大山橋に。その先、道が川状になっていて飛び石の上を渡っていくスポットがあり慎重に進む。最後は急登になったが立派な木造階段が300余段続く。最後の力を振り絞って登り切ると目の前が開け頂上間近の5号路との交差点に出る。10時10分頃頂上着、天気悪く展望無し、コースタイム通り。ケーブルを使っての1号路グループと合流。一休みしてから下山開始する。頂上から少し下った展望台で雲の切れ目から八王子市の街並みが見えた。

雨が降り出し傘をさしながら天平の時代高僧行基により開山されたと言う薬王院まで山道を下り、さらに舗装されたケーブル高尾山駅からの参道を下る。老若男女が普通の服装で大勢登って来る。高尾山は本来信仰の山だが首都圏の憩いの場であることも実感した。高尾山駅からケーブルで清滝駅まで下り、土産物街で名物とろろそばを食べ集合場所のミュージアム（無料休憩所）へ。悪天候のため予定を早め帰路に就く。

天候には恵まれなかったが初めての高尾山のメインルートが無事歩く事が出来楽しい一日だった。天気の良いとき再度訪れ展望台から左にスカイツリー、中央の富士山、右に南アルプス農鳥岳の眺めを見てみたい。（岩崎孜郎 記）



桐生倶楽部ガーデンパーティーの翌日の朝6時に出発。参加者は12名であった。7時20分高坂SA発 8時30分高尾山駐車場に到着。ここでメンバーは登山組とケーブルカー組に分かれた。このケーブルカーは日本一の急勾配といい、手すりに捕まる必要のある箇所もあった、両方の組とも薬王院までは雨模様の中を歩く。登山道は広く薬王院への長い階段を除いて歩きやすかった。空模様は今にも降り出しそうな状態だが、新緑の道は美しい。老若男女を交えた登山者はまばらである。11時に山頂着。晴天時には正面に白くそびえているはずの富士山は雲に覆われて見えず、わずかに手前の相模湖が広がるのみであった。間もなく雨は本降りとなり、下山には全員がケーブルカーを利用した。天候には恵まれなかったが、梅雨前の新緑の登山の雰囲気味わえ、名物のそばなども賞味し、思い出に残る山行であった。昼食後は、高尾山の動物の剥製、植物標本、自然の環境を展示した高尾599ミュージアムのモダンな博物館に12時半に集合した。13時半に駐車場発、帰途についた。途中で上里SAに寄って、15時半に桐生倶楽部に到着した。（山口一郎 記）

